

○（第8分野）桜井委員

女性のメンタルヘルスについて（①厚生労働省の取組の現状 ②今後の取組）

（答）

産後鬱や更年期鬱などへの対応について、医療機関との連携により保健師、助産師などが実施している例や、研究、予防対策などについて、厚生労働科学研究（別紙のとおり）において研究中であり、この結果を今後の取組にいかして参りたい。

吉田 敏子	九州大学病院精神科神経科	育児機能低下と乳児虐待の評価パッケージの作成と、それを利用した助産師と保健師による母親への介入のための教育と普及
-------	--------------	--

### 研究の概要

<p>【目的】 出産後の母親の育児機能の低下と乳児虐待の危険性を早期に評価するパッケージの作成 それを利用した母親のメンタルヘルスの向上と育児支援のための介入方法の教育と普及</p>
<p>【期待される成果】 既存の医療健診システムを利用して育児機能不全の状態にあり虐待のリスクを持つ母親をスクリーニングでき効率的な児童虐待対策の一助となる</p>
<p>【計画・方法】 1年目：母親の精神状態と育児機能および虐待兆候を総合的に把握できる質問紙を用いた評価パッケージと、その使用マニュアルの作成と出版 2年目 マニュアルを教材とした母子保健スタッフ対象の東京と福岡で全国セミナーを開催 3年目 全国レベルでの質問紙評価パッケージの実施、乳幼児健診や母子訪問における有効性を評価。</p>
<p>【倫理面の配慮】 精神障害の母親のみに焦点付けず、育児支援の必要な母親を対象をひろげて支援することにより、介入の実施側もユーザー側も研究に参加しやすい。研究の意義は、母親へ口頭と文書で説明し、書面で参加の同意を得る。</p>

### 研究の目的、必要性及び期待される成果

<p>【目的】 健やか親子21の理念に基づき、地域をベースにした実施可能でわかりやすい家族支援の介入方法を開発することを目的とする。</p>
<p>① 育児機能の障害の原因や特徴別の介入が可能となる、全国で共有できる総合評価パッケージとする。 ② 軽度の育児不安から虐待まで、育児障害の重篤度別に具体的な介入方法を提示し、母子精神保健サービスの実践的モデルとなるものを策定する。</p>
<p>【期待される効果】 ① 育児評価には、育児障害の社会経済的に不利な養育環境も評価できるパッケージを用いるため、地域保健師、助産師、福祉関係者など多職種間で共有し母子介入の連携が可能となる。</p>
<p>② 児童虐待の危険性を、出産直後や出産前の時期からもスクリーニングでき、養育環境のモニターと予防の効果がある。</p>
<p>③ 長期的には、育児障害の結果として生じる子どもの発達の遅れや、多動や衝動性などの問題行動の軽減につながる。</p>

この研究に関連する国内・国外における研究状況及びこの研究の特色・独創的な点

【国内・国外における研究状況及びこの研究の特色・独創的な点】

- ① 国際的な学術水準に達した研究である。学術交流を通じて、本研究成果は海外からも注目されている。
- ② わが国は医学の技術水準の技術が高いが、精神保健においては欧米との家族や社会の制度のちがいもあり、妊娠や出産についても独自の家族支援のあり方が求められる。
- ③ 研究の構成メンバーは国内では、わが国の医療・文化の背景をとりいれたリーダー的存在であり、国際比較研究の参加者でもある。
- ④ 母子精神保健の介入は、地域で育児中の母親が家庭でも利用できる必要がある。母子訪問を利用した、そのモデルづくりを、研究構成メンバーは全国に先駆けて実践している。
- ⑤ 現在児童虐待への介入は、幼児から学齢期の子どもを主な対象としている。本研究はその対象年齢を、乳児にまで引き下げた、周産期乳児虐待の防止の介入という意欲的な試みである。

【解決すべき課題】 育児障害の関連要因の1つである産後うつ病のスクリーニング方法は確立され、本研究でも用いられているが、母親の乳児への愛着形成不全や養育環境の危険要因、乳児側の気質や小児科疾患などを総合的に評価する方法はいまだ確立されていない。

申請者がこの研究に関連して現在までに行った研究状況

- ① 周産期精神医学の国際比較研究:1990年から7年間、ロンドン大学精神医学研究所周産期医学部門にて、ウェルカム財団からの助成金を得て周産期精神障害の評価介入方法についての研究を行った。
- ② 国内では1992年(平成4年)から厚生省心身障害研究にて(1)産後うつ病の研究と(2)在英邦人のうつ病の頻度の調査を実施
- ③ 1997年からは、厚生省心身障害研究および1999年、厚生科学研究にて、福岡市の一保健所をベースにして、出産後の母子訪問に産後うつ病質問票を採用した地域における取り組みを実施、その有効性を検証した。
- ④ ①の英国の研究者とともに、母親の子どもに対する否定的な感情と乳児虐待のスクリーニングのための質問紙の有用性につき共同研究中。

## 研究計画・方法及び倫理面への配慮

### 【研究計画・方法】 <1年目> 質問紙評価パッケージの作成と使用マニュアルの開発と出版

質問紙評価パッケージは以下の3つの内容を含む。(1)エジンバラ産後うつ病質問票 (2)赤ちゃんへの気持ち質問票 (3)育児困難関連要因リスト (1)は産後うつ病のスクリーニングとして確立されているので母子保健スタッフが実際に用いた際の質問事項や感想などをまとめ使用マニュアルを作成する。(2)については原作のロンドン大学周産期部門とのあいだで比較文化的検討を行う。(3)については関連要因リストのなかで乳児虐待のリストと関連の強いものを統計解析によりリストアップして介入の際のチェックポイントとしてマニュアルに加える。

### <2年目> 質問紙評価パッケージを用いた講習会の開催と、登録参加者によるマニュアル実施状況のフォローアップ調査

1. 1年目で作成したマニュアルを使用して、東京と福岡で保健師や助産師を対象とした講習会を開催する。 2. 受講者を登録し人材連絡簿を作成する。講習会の教育効果および地域でのマニュアルにもとづく介入の実施状況のフォローアップ調査を行う。 3. セミナーに際し、英国の母子精神保健の指導者を招聘する。

### <3年目> 質問紙評価パッケージのフォローアップ調査による有用性の量的・質的検討

1. 講習会受講者による質問紙評価パッケージにもとづく地域育児支援を実施し、支援スタッフと支援を受けた母親と家族による支援の有用性と妥当性の評価についてのフォローアップ調査を行う。  
2. フォローアップ調査の結果を解析し、介入マニュアルの改訂の必要性の有無を検討し、各地域で使用可能な改訂版を完成する。

### 倫理面への配慮

1. 母親の研究参加と育児支援を受けることについては、母親による書面での同意書で確認する。  
2. 研究の参加を中止しても、必要なら育児支援を継続することを保証する。  
3. 質問紙による評価結果などのデータ管理に際し、スタッフの守秘義務教育を徹底する。